

第二十八回宮柁二記念館全国短歌大会

選者

大下一真 先生

水上比呂美 先生

入選作品集

第二十八回宮柵二記念館全国短歌大会ご参加へのお礼

大会会長 魚沼市長 内田 幹夫

第二十八回宮柵二記念館全国短歌大会に、遠くはブラジル・台湾から、そして、日本全国各地の皆様から、多くの歌を寄せていただいたことに心からお礼申し上げます。

今年も新型コロナウイルス感染症の猛威は収まることはありませんでした。しかし、人々の生活は、「ウイズコロナ」にシフトしつつあります。そこで、宮柵二記念館においても、感染拡大防止対策を講じながら三年ぶりに全国短歌大会表彰式を実施することといたしました。会場の変更や招待者の制限など皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしますがよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今大会一般部門においては、九百首に迫る作品が寄せられました。ジュニア部門とあわせ、全体では今年も一万二千首を超える応募をいただき、「全国短歌大会」の名にふさわしい大会としていただくことができました。

また、このようなたくさんの応募歌について心を込めて選歌をしてくださった大下^{おちくだ}一真先生、水上^{みなかみ}比呂美先生に心からお礼を申し上げます。

大下一真先生は、鎌倉の名刹・瑞泉寺のご住職です。歌誌「まひる野」に所属し、現在編集発行人を務めていらつしやいます。これまでに歌集や評論・エッセイなどを多数著されておられます。

水上比呂美先生は、「コスモス」選者、編集委員を務めていらつしやいます。歌集『さくろの水脈』『潤み朱』『青曼殊沙華』を著されるとともに、NHK学園の講師をお務めになられておられます。

このような素晴らしい先生お二人から選歌をいただけたことを皆様とともに感謝したいと思います。

皆様のご支援とご協力により、二十八回目の大会を成功裏に終えることができましたことを改めてお礼申し上げます。そして、引き続き多くの人々が短歌に親しむとともに、楽しみながらも一層研鑽されますことを祈念し、お礼のことばといたします。

変わるもの変わらないもの

大下 一真

たくさんの作品を読ませていただきました。中学生、高校生の皆さんは募集期間が夏休みと重なったこともあって、いかにも青春まつただなかの夏を多く歌っていただきました。宿題が多くてたいへん、やってもやっても終らない宿題の山といった作品を読みながら、選歌も数が多いとほんとうに読んでも読んでも終らない短歌の山でした。でも、皆さんが真剣にこの伝統詩に立ち向かってくださったその心の熱さに負けまいと、私も頑張りました。久しぶりに自分が青春に立ち返ったような気もしました。そして、時代の移ろいの中で、変わるものと変わらないものがあることも思いました。変わったものは、例えばスマホやゲーム、それに付随するもので、正直、理解できない世界もありました。一方で、人や家族を思う気持ち、自分の将来を考える思いや不安などは、私の六十年前と変わっていないようです。さらに言えば、自然の移ろいに何かを感じる心は、六百年どころか千年のむかしも変わりません。宿題で作らされた、二度と作りたくないと思っ
ている方がおられるかも知れません。でも、人生を重ね、心のあり方に変化が起き、自分の思いを何かを借りて述べてみたいと思った時、この経験が生きるはずです。短歌は、人の小さな心の動きを語るのにちょうどよい器なのです。だから、昔のむかしから、ずっと受け継がれ作られ続けて来たのです。

小中学生、高校生の皆さんに向かつていろいろ申しましたが、一般の方に向かつてもし上げることは、さして変わりません。一般の方は、この形式を選んで作られました。素晴らしい作品に出会わせていただきました。畢竟は、この形式をいかに深く愛するか、です。今後のご精進を期待します。

心がピピッと受信したら

水上 比呂美

八月半ば一般の部の詠草が届きました。九月半ばジュニアの部の詠草が届きました。このときを胸を弾ませながら待っていました。一首一首拝見しながら、この詠草の中から、選をして順位をつけるのはとても難しいと思いました。作者の方々の三十一文字に込められているパワーや感謝や愛情が伝わってきました。惜しくも入選を逃した作品も、歌の対象に寄せる優しさが印象的でした。

一般の部の上位に選んだ歌は、ほんとうに素晴らしく魅力的でした。不思議な昔話のような歌、郷土の行事の復活を喜ぶ歌、現代の不穏な社会情勢を暗示させる歌、思いがけない方向から死を見つめる歌、懐かしい風景を描いた歌、絵画のような美しい歌、越後に生きる矜持を詠った歌、年老いた友人を温かい眼差しで見つめる歌、心に沁みました。

ジュニアの部の歌は、情景があざやかに目の前に浮かんでくる歌がいいなと思いました。小学生らしいわくわくする歌、家族を詠んだ歌、友だちとがんばった歌、先生の意外なところを見つけた歌、それぞれ歌に詠まれたその人のことが、大好きだということが伝わってきました。中学生の歌は、瑞々しい感性が光る歌や枕詞を使った高度な歌に感動しました。高校生の方たちは、夏休みの課題がたくさんあって、時間の限られた中で短歌を詠んだことがわかりました。部活の歌、恋の歌に、若さが弾けていて新鮮でした。

歌を詠むなんて、めんどくさいと思った人も、がんばって歌を提出してくださいましたね。五七五七七と指を折って、もつといい言葉がないかな、胸の中の思いがあの人に届くといいな、と考える時間はとても豊かな時間です。悲しいとき、寂しいとき、どきどきしたとき、心がピピッと何かを受信したら歌に詠んでみてください。

選者略歴

大下一真（おおした いっしん）



昭和二十三年、静岡県生まれ。昭和三十九年「まひる野」入会、現在編集発行人。「方代研究」編集人。現代歌人協会会員。

日本文藝家協会会員。鎌倉歌壇会長。歌集に『存在』『掃葉』『足下』（第三十二回日本歌人クラブ賞受賞）『即今』（第十四回寺山修司短歌賞受賞）『月食』（第十六回若山牧水賞受賞）『草鞋』『漆桶』（第五十六回逕空賞受賞）。著書に『山崎方代のうた』『鎌倉山中小庵日記』『鎌倉花和尚独語』。湯川晃敏氏（日本写真家協会会員）との共著に写真集『方代さん』『酒酒酒泪』、フォトエッセイ『大下一真 方代さんの歌をたずねて』など。

水上比呂美（みなかみ ひろみ）



1951年横浜生まれ。青山学院女子短期大学国文科卒。娘二人が同大学同学科入学し、創作短歌の授業で、宮柁二先生の門下の高野公彦先生に短歌を習いました。

そのころ私は、自己流で短歌を作っていました。私の四十九歳の誕生日に娘たちが青短専攻科の入学要綱をプレゼントしてくれました。卒業して三十年近くたって母校に再入学し、私も高野先生に短歌を教えていただきました。そして2001年「コスモス」短歌会に入会しました。

歌集は『ざくろの水脈』『潤み朱』『青曼珠沙華』の三冊があります。コスモスの選者と編集を手伝っています。青短の卒業生と「青りんごの会」というサークルで短歌を勉強しています。NHK学園の短歌の添削講師をしています。似顔絵を描くのが好きです。